



祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち，
商いと暮らしが響き合うまち 明倫

— まちづくりの目標と方針 —

平成 19 年 3 月

明倫自治連合会
京 都 市

目 次

ごあいさつ

■ “明倫学区”のなりたち	1
■ 明倫のまち	2
■ 先人の見識に学び、まちづくりを進めよう	4
■ まちづくりの目標	6
目標1 地域に愛着と誇りを持ち、文化が薫るまちの個性と魅力を高めよう	6
目標2 商いと住まいの共存を図り、風格のある美しいまちなみを創ろう	8
目標3 だれもが安全・安心に暮らせ、交流豊かなコミュニティを創ろう	10
■ 明倫学区の地区計画	12
■ 明倫学区からのお願い	13
■ 明倫自治連合会の組織と活動	14

ごあいさつ

当明倫学区は、祇園祭の山鉦風流が創設されて600年、その中心地域であり続けてまいりました。これは、先住者の商業活動と見識のたまものであります。各町にあります「町式目」や「町法度」には自町の約束事を明文化しているのです。

もとより各人の価値観は多様なものでありますが、それをのりこえて約束事をきめたのでした。今のことばでいえば「公共心」を一番尊いものとして位置づけ、ときには自己規制をも要求していたのであります。

商いの場には「堪忍」の木額を掲げて互いの立場を思いやりながら商いに汗したのでしょう。「堪忍」は石田梅岩先生の「石門心学」を中興した手島堵庵の書であります。我が明倫学区は心学の道場「明倫舎」がもととなって明治2年に番組小学校となったことは皆よく知るところです。

都心部の子供が減少したために、8つの旧学区が高倉小学校に学ぶようになりましたが、幸い昭和6年に新築された校舎を、財政のきびしい京都市が十億円の改修費をかけて「京都芸術センター」として生まれ変えたのは平成12年のことであります。

今では明倫学区の象徴的な存在であり、体育、文化活動の拠点であるばかりでなく当学区の生活文化の象徴でもあります。

また、近年は学区人口が大きく増加し、京都でも最も伸びているということで、将来を担う子供達が増えてきております。格調高い景観の明倫学区、豊かな自治活動を通して将来をになう子供達を守り育てましょう。



明倫自治連合会
会長 吉田孝次郎

京都市では、住民とのパートナーシップによるまちづくりを推進しています。

平成18年7月に、明倫学区のまちづくりの方針を地区計画として都市計画決定しました。

この冊子は、まちづくりの方針をわかりやすく伝えるために、明倫学区の皆さんとともに検討し、作成したものです。

平成19年3月

京都市

“明倫学区”のなりたち

「明倫学区」は、明治2年に設立された「下京三番組」小学校を前身とし、平成12年（2000年）に統合のため廃止され、現在は京都芸術センターになっている「明倫小学校」の当初の校区域です。

「明倫」の名称は、小学校の設立当時その地にあった石門心学の私塾「明倫舎」に因んだものですが、すでになくなった校区（元学区）が、なぜ今も「自治連合会」の区域となっているのでしょうか。

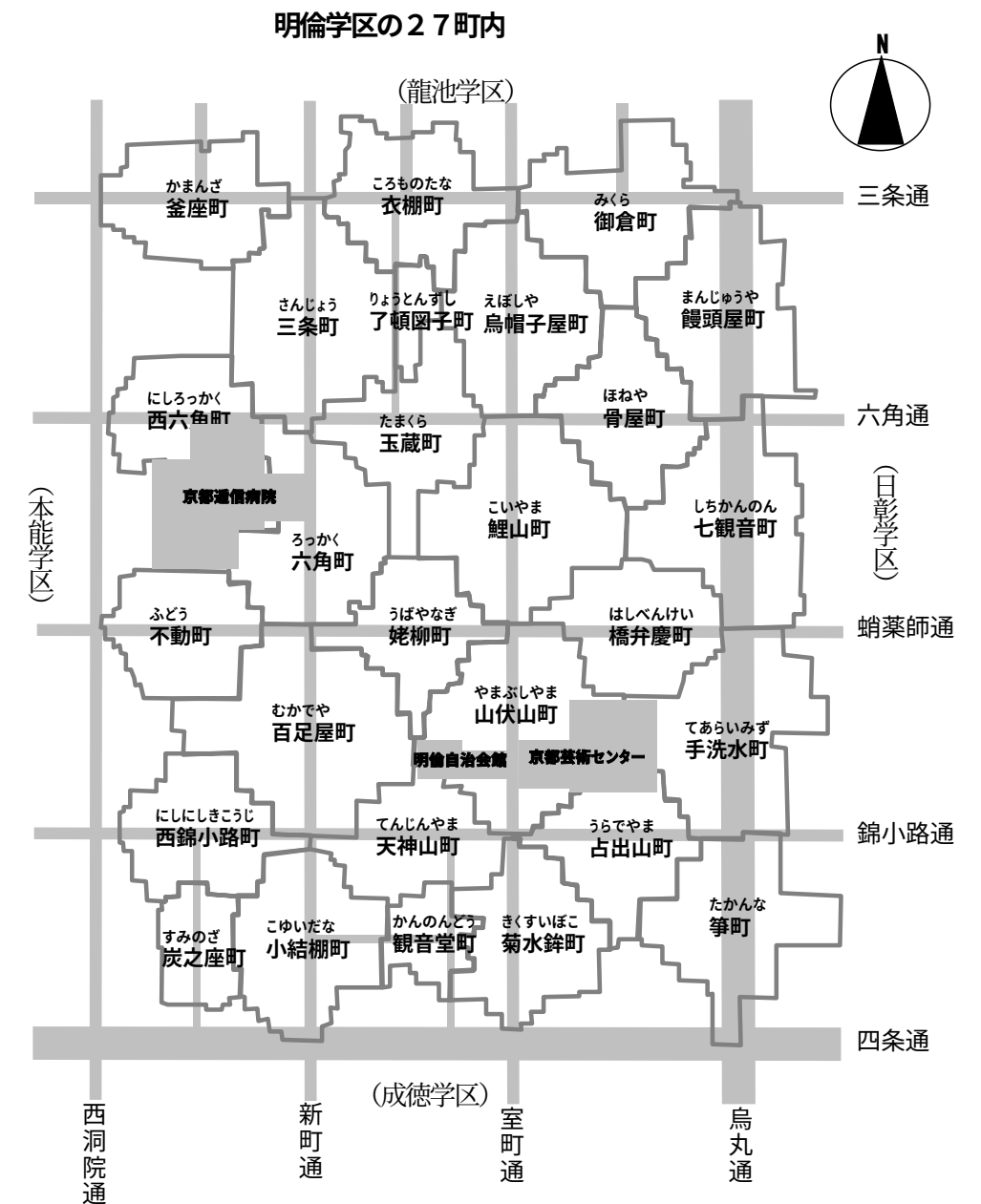
「下京三番組」は、室町末期から形成されてきた町組（ちょうぐみ）が、明治2年（1869年）に全市で65の「番組」に再編成された区域のひとつで、「明倫学区」は単なる通学区ではなく、行政（自治）区域でもあったのです。

小学校の設立と番組への再編は同時に行われ、明倫校など当時設立された小学校は、各番組が設立した小学校会社などにより、学区民からの軒役（負担金）や寄付で自主的に建設されました。

小学校には、番組の運営を行い紛争調停などの権限をもつ自治機関として「番組会所」がおかれ、町組自治・行政の拠点として、戸籍事務や今の消防署などの役割も果たしていました。

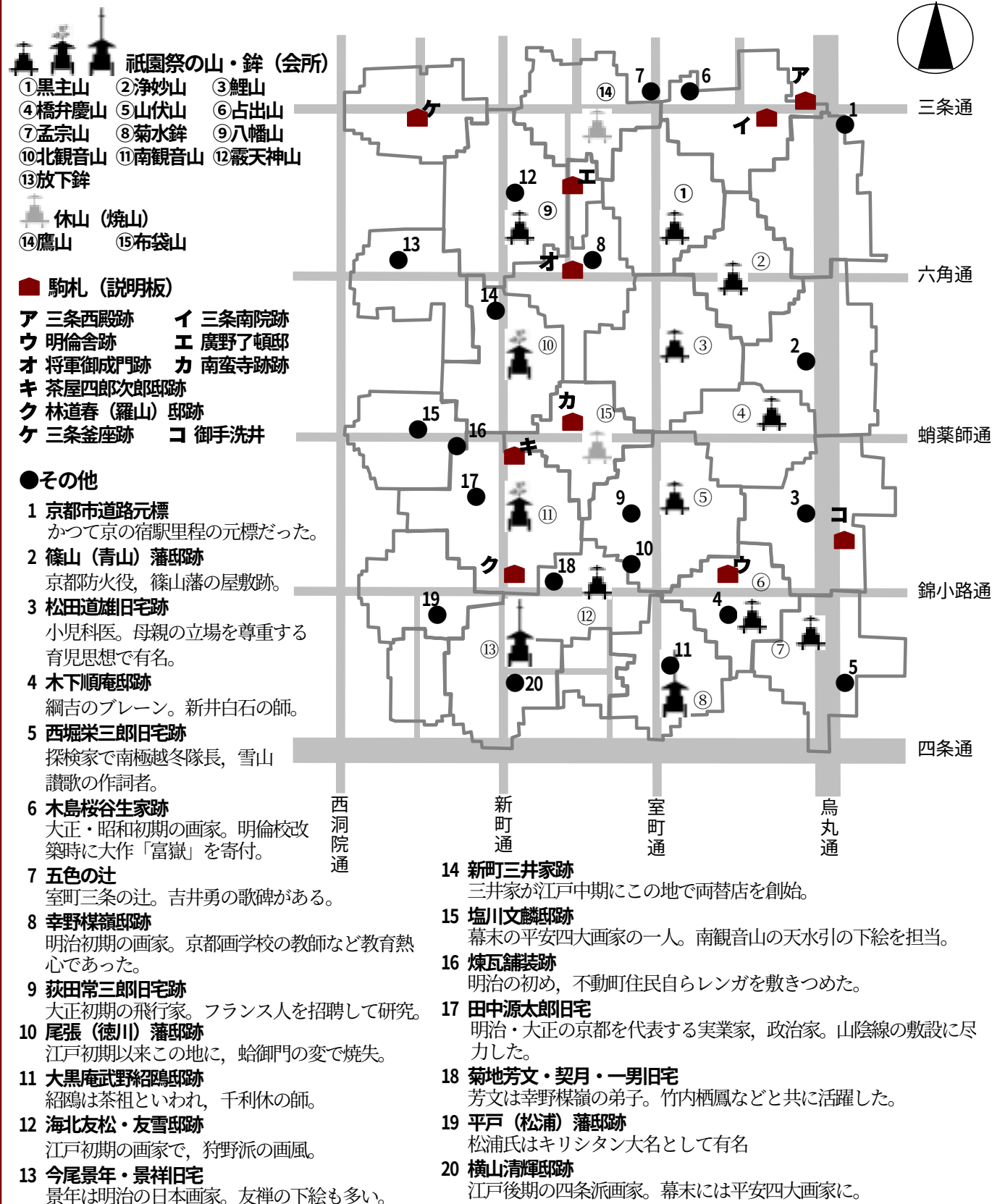
明治の近代化や戦後の制度改革のなかで、町の自治権は失われて「町内会」になり、「明倫学区」の自治組織も、町内会の連合として『明倫自治連合会』となりましたが、今でも学区民の自主的な運営により、活発に活動を続けています。

（学校歴史博物館資料などによる）



明倫のまち

祇園祭の山と鉾，明倫の歴史を物語る駒札，遺跡など



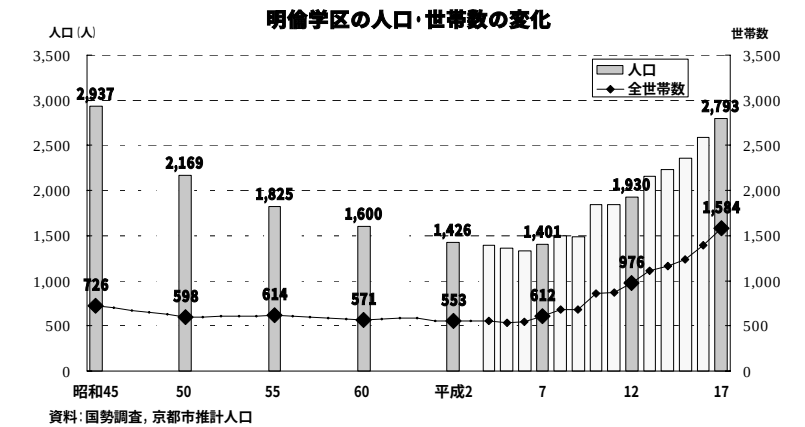
（明倫誌などによる）

明倫の現状・特性

● 人口、世帯の増加が続く

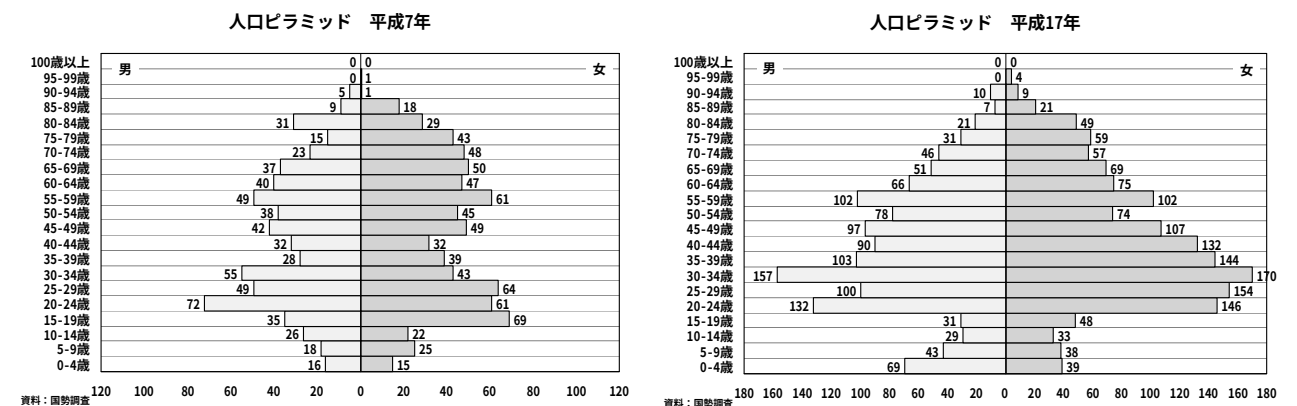
平成2年頃まで、学区の人口は減少していましたが、平成7年以後は急激に増加（学区単位で京都最高の伸び）、平成17年には、昭和40年代の人口に回復。

世帯数の増加も著しく、現在は昭和40年代の約2倍です。しかし、一世帯当りの人口は1.8人と少なくなっています。



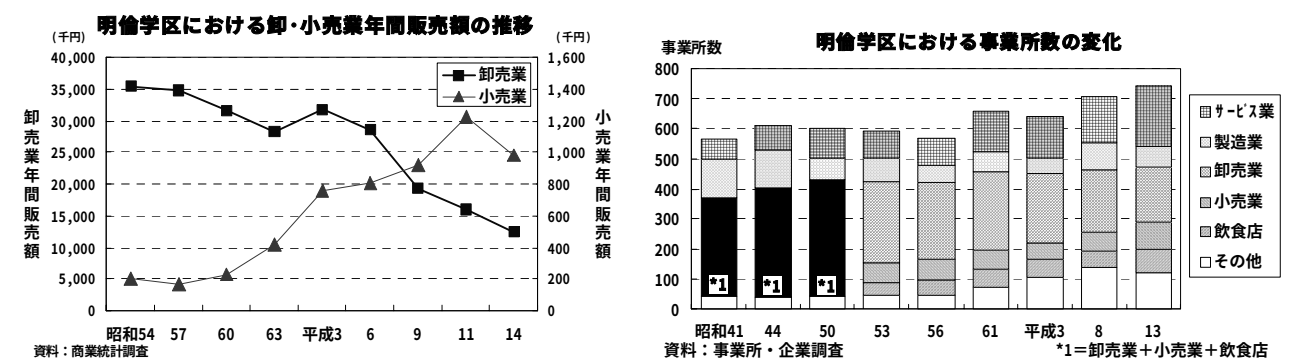
● 20～30代と子供たちが増加

学区の人口ピラミッド（年齢別人口）は、男女とも20～30歳の若年齢層の増加が目立ち、50歳代や4歳以下の子どもたちの増加も著しくなっています。この増加人口の殆どは共同住宅居住者と見られます。



● 和装・繊維中心の卸売業が低迷，小売業・サービス業が増加

長期的な和装・繊維業界の低迷により卸売業の販売額が減少し、平成9年以降は小売業と逆転しています。また、飲食店やサービス業など、新しい業種の事業所が増加しつつあります。



先人の見識に学び、まちづくりを進めよう

● 伝統と現代が同居するまち“明倫”

私たちの明倫学区は、祇園祭に多くの山や鉦を出す地域であり、近世以来の自治の気風、和装などの商いや伝統的なまちなみを伝え、商いと共存しながら多くの住民が暮らす地域です。また、烏丸通は、銀行や企業の本社・支社が多く立地する京都を代表するメインストリートとなっています。

新町通のまちなみ



烏丸通のビル街



● 先人たちが守り育ててきた祇園祭、自治の気風、芸術・文化への造詣

平安時代も末になり貴族社会が衰微すると、人々は通りに面して家屋敷を構え、様々な商いをするようになりました。室町時代には商人の力が大きく成長、自らの力で町を守り育て、自らが作ったルールで自らの町を治めるという気風が生まれました。それらを象徴するものが祇園祭の“山鉦”にほかなりません。

応仁の乱など戦乱が激化すると町毎での対処が困難になり、複数の町が団結した「町組」が生まれ、力を蓄えた町衆によって指導される自治組織へと発展しました。秀吉による京都の大改造に対しても、明倫学区では室町時代以来の町割を維持してきたことは、今に残る正方形の街区などにより明らかです。

町組による自治の伝統は、明治以後も「番組」（明倫学区）として受け継がれ、現在は京都芸術センターになっている元明倫小学校の建築美は、昭和初期の先人たちの見識と心意気を伝えています。



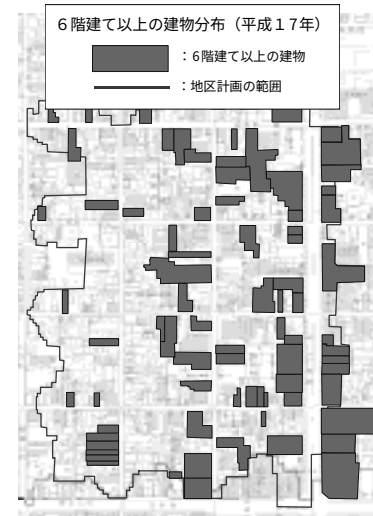
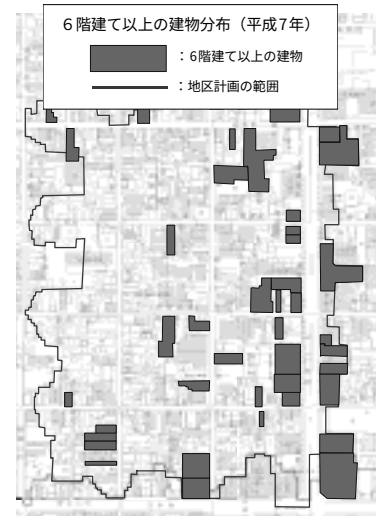
新町四条の辻回し（南観音山）



京都芸術センター（元明倫小学校）

● まちの個性が失われ、高層建物などでまちなみも雑多に

近年の和装企業の撤退などにより、商いと住まいが共存していた明倫学区の個性が失われ、地域と不調和な建物や看板等により、まちなみが雑多で統一感のないものになりつつあります。一方、マンションの建設により人口が急増し、従来からのコミュニティとの共生が急務になっています。



町家の背後に高層ビルが

● 自らのまちは自らの手で守り育てる、まちづくりの伝統を見直そう

明倫の個性と活力が低下し、コミュニティ意識が薄くなりつつある今こそ、自らの力で自らのまちを守り育てる自治の伝統を見直し、コミュニティとまちなみの再生を図り、明倫の個性と活力を取り戻すことが必要なのではないでしょうか。

『祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち、商いと暮らしが響き合うまち 明倫』

を合言葉に、新たなまちづくりを進めたいと思います。

この冊子は、明倫まちづくりの「目標と方針」、目標実現のための具体的な「ルールづくり」の方向について取りまとめたものです。この冊子にうたわれていることを実現するため、学区をあげて取り組んでいきたいと思っています。

まちづくりの方向（目標と方針※）を、明倫学区みんなで共有する。

目標・方針を実現するための具体策やルールを、みんなで検討し、決めていく。

具体策やルールを、できることから順次実行し、まちづくりを進める。

※明倫学区の地区計画（12ページ参照）

まちづくりの目標

目標1 地域に愛着と誇りを持ち、文化が薫るまちの個性と魅力を高めよう

< 時代を超え受け継がれてきた山鉾風流・町会所 >



町会所（放下鉾）

平安時代の始めごろ、京の都は多くの疫病や天災に見舞われました。それを怨霊のしわざと恐れ、神泉苑に当時の国の数だけ鉾を立て怨霊を鎮めたのが、祇園御霊会（ぎおんごりょうえ）の始まりとされています。

鎌倉・室町時代以降に町人・商人の力が増してくると、町（ちょう）の自治が確立していくとともに、御霊会はこれらの町衆の力により、様々な工夫を凝らした山鉾風流（やまぼこふうりゅう）として今のように盛大なものになっていきました。

祇園祭のときに山や鉾が建つ町会所（ちょうかいしょ）は、自治の拠点として各町の共有建物として造られてきたもので、現在はお祭の時だけでなく、町内のサークル活動などにも活用されています。

< 芸術や文化への造詣が深かった先人たち >

江戸時代や明治時代の町衆の間では、それまで武士のたしなみとされた茶道や華道、謡曲、絵画などへの造詣が深まり、中には画家を積極的に育てようとする呉服商なども現れました。その伝統は、明治の京都画学校（京都市立芸術大学の前身）の設立に受け継がれました。

現在の京都芸術センター（元明倫小学校）の建物や、そこにあるペトロフピアノは、わたしたち明倫学区の先人である昭和初期の人々の教育にける熱意と見識を示すものとして、大いに誇りとしたいものです。

中村大三郎画「ピアノ」（1926年）



◆ 地域の歴史や文化を学習・発信する機会を充実しよう

祇園祭、元明倫小学校など歴史的なまちの資産の価値を再認識するとともに、すべての住民が誇りを持って住むことができるまちにしましょう。

そのため、明倫夜話の座、子ども祇園祭講座の開催、駒札の設置などにより、地域への愛着と誇りを育むとともに、暮らしぶりや生活文化を伝え、次代に受け継ぎましょう。



明倫夜話の座

◆ 地域みんなで祇園祭を支えよう



わが国の三大祭である祇園祭は、明倫学区が誇る学区民のお祭です。山や鉾が建ち並んだハレの日のまちなみは、時代を超えた明倫の歴史を私たちに感じさせます。

山鉾町に限らず、お祭の時には各戸で提灯を建て幔幕を張って、お客様をお迎えするしつらえをし、子どもたちも山鉾町のお手伝いをするなど、祇園祭を地域の人々で支えていきましょう。

♪ ローソク一丁献じられましょう♪

◆ 芸術・文化を身近に親しめるまちにしよう



学区内に育まれた文化や芸術に、身近に親しむ機会として、「明倫文化祭」でのお茶席、華展、邦楽演奏、ペトロフピアノ演奏会などを開催して、「芸術・文化」をキーワードにしたまちづくりを進め、地域の住民や来街者が質の高い芸術・文化を気軽に親しめるまちとして魅力を高めましょう。

明倫文化祭・柳水の茶席

◆ アーティストを温かく見守ろう

京都芸術センターの催し、センターにおけるアーティストの活動などに積極的に参加することや、地域との交流の場づくりにより、アーティストを温かく見守るまちを目指しましょう。



京都芸術センターでのワークショップ

目標2 商いと住まいの共存を図り、風格のある美しいまちなみを創ろう

< 商いと暮らしが一体となった活力あるまちだった >

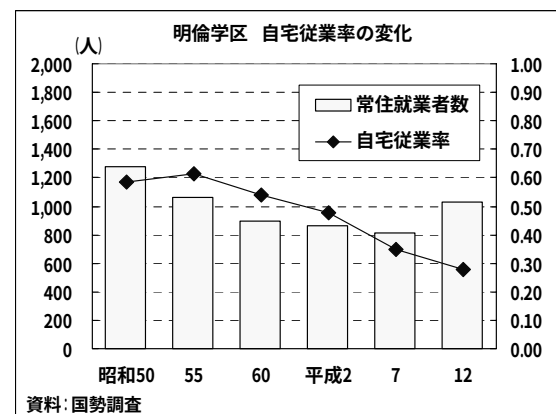
明倫学区は、近世以来の呉服・繊維のまちとして、多くの人が住み・商う職住一体のまちとして発展してきましたが、昭和30～40年代に職住の分離が始まって人口が減少、室町は繊維問屋ビル街となっていきました。

近年は、呉服・繊維産業が不振で、その跡地に大規模・高層マンションが増加、かつてのような商いの活力が失われています。

住まいと一体の店先



自宅での従業率が低下



※自宅従業率＝自宅です仕事をする人／常住就業者（住んでいて仕事を持っている人）

◆ “美”をキーワードに、まちの活力を再生しよう

“美”をキーワードとして、芸術と産業のコラボレーションを進め、失われた商いと暮らしのバランスを取り戻し、まちの活力を再生しましょう。

例えば、建物の低層階に、店舗、アトリエ、ギャラリーなどの“にぎわいと美”の空間をつくるなど、質の高い芸術に気軽にふれ、親しめるまちの個性を積極的に発信し、住民や企業にとって魅力あるまちを目指すことが考えられます。

大西清右衛門美術館



染・清流館



◆ すべての住民・事業者の地域社会への参加を促進しよう

すべての住民や事業者が、明倫学区の一員としての自覚と誇りを持ちつつ、地域社会への参加ができるよう、みんなで守る暮らしのルールを定めた現代の町式目、「まちづくり規約（仮称）」を、町内や学区で作成しましょう。

< 自らのルールにより保ってきた節度ある商いと暮らし >

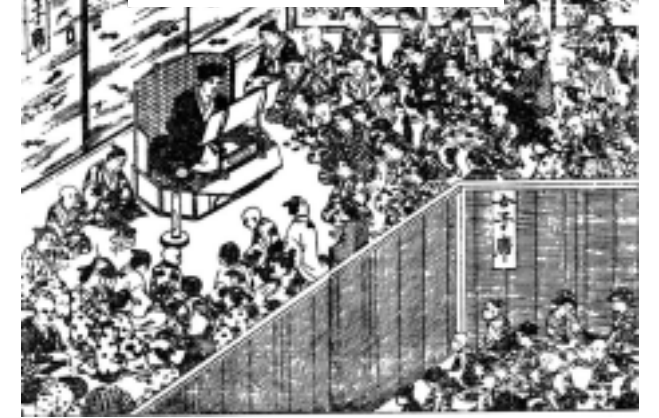
先人たちは、石門心学（明倫舎）の教えである“堪忍”を肝に命じながら、互助の精神のもと「節度ある商いと暮らし」を続けてきました。各町に残る町式目や法度には、火の用心を第一に「不正な取引をしない、門掃き・水撒きの励行、土地・建物の売買は町内の了解を得ること」などが謳われています。

しかし、近年は、このような商いや暮らしのモラル・ルールを軽視する風潮が強くなり、それにともなって、周辺への配慮を欠いた建物の増加、派手な看板などにより落ち着いたまちなみが崩れてきました。

かつて商家に掲げられていた「堪忍」の額



心学塾の様子（江戸時代）



◆ 風格ある美しいまちなみを創ろう

・建物等や広告物・看板などのルールづくり

建物や土地・広告物・看板等の用途、高さ・形態・デザイン、色彩などについてのルール。土地の細分化防止のルール、駐輪場の設置についてのルールなどをつくりましょう。

・「鉾のみち」づくり

新町通は、祇園祭の時にすべての鉾が通ります。

「鉾のみち」として、山・鉾や祭をモチーフに、沿道の建物やその付属物の修景することや、電柱・電線の地中化の実現などにより、「鉾のみち」にふさわしい「まちなみ」と「みちづくり」を進めましょう。

電柱・電線をなくした新町通のイメージ
(立命館大学八木研究室作成)



・明倫まちづくり協議会（仮称）の設置を目指そう

風格ある美しいまちなみ形成や、節度をもった町家等の活用を確保するため、建物等の新築・改築について、事業者や行政と一緒に事前に協議をすることができる組織の設置を目指しましょう。

目標 3 だれもが安全・安心に暮らせ、交流豊かなコミュニティを創ろう

< 明倫小学校を核とした「地域の力」でまちが守られてきた >

昭和初期に、明倫小学校（現芸術センター）を建てた先人に見られる見識と心意気が、次の時代を担う子どもたちを育て、地域ぐるみの教育への情熱により、生活の中での文化や誇りを守り育ててきました。

また、小学校を核として、地域の力で消防や紛争調停など、地域の安全・安心を守ってきました。

子供たちの登下校を見守る



< “明倫”としての一体感が地域をまとめてきた >

明倫学区民としての一体感が地域をまとめ、さまざまな人々が共に暮らしてきましたが、一時は人口の減少や高齢化により、学区民としての一体感、コミュニティ意識が薄れ、地域のまとまりを取り戻すことが課題でした。

最近では、世帯や人口が大きく増え、コミュニティ意識の回復をめざす活動や、地域ぐるみで、子どもたちや高齢者を見守る意識や活動が芽生えてきています。

地域ぐるみで避難訓練

（平成17年度中京区にぎわいのまちづくり支援事業
子どもたちが描く「安全・安心なまち」から）



◆ だれもが安全・安心に暮らせるまちをつくろう

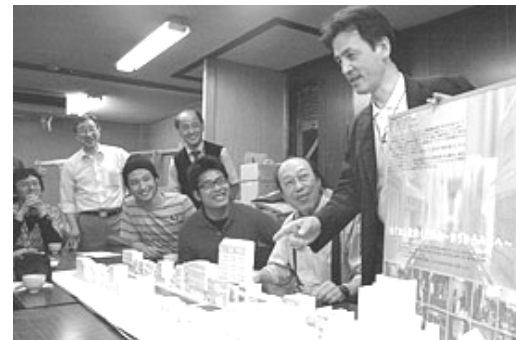
・防災・防犯のネットワークを形成する



消防車を迎えて
バケツリレー

交通安全、消防団、防災、防犯など、防災、防犯に関する関連団体間の連携を強化するとともに、すべての住民の皆さんを対象とした緊急連絡網をつくりましょう。

また、挨拶・声かけ、門灯の点灯などの運動を推進することにより、安全・安心のまちづくりネットワークを形成しましょう。



三条通りを考えよう会
の活動（読売新聞社提供）

・歩車共存の道づくりを進める

三条通を中心として、明倫学区のまちなみと調和した交通安全施設の整備、無電柱化、その他道路設置物や沿道建築物などの修景により、歩行者の安全性と快適性に配慮した道づくりを、近くの学区や、学校・PTAと連携しつつ進めましょう。

・京都通信病院との連携を進める

地域医療の拠点である京都通信病院と連携し、介護教室、救急・救命の講習など、安全・安心のまちづくりへの取組を進めましょう。

看護師さんと一緒に



◆ 交流豊かなコミュニティをつくろう

すべての住民の地域社会への参加を促進し、交流豊かなコミュニティを形成しましょう。また、地域に愛着と誇りを持ち、自らのまちは自らつくる気概を育み、その力を結集しましょう。

・日常的な活動の中での交流機会を増やす



区民運動会や明倫文化祭、地蔵盆など、自治連合会や町内会の行事や催し物、その他のあらゆる地域の活動の機会に、すべての住民が参加できる交流の場を増やすようにしましょう。

楽しく交流、近所づきあいを大切に
（平成17年度中京区にぎわいのまちづくり支援事業
子どもたちが描く「安全・安心なまち」から）

・緑地・広場、高齢者と子どもの交流の場をつくる

元幼稚園園庭や、その他空地を活用した緑地・広場づくり、明寿会、もえぎ幼稚園、高倉小学校、御池中学、社会福祉協議会などとの連携により、子どもと高齢者の交流空間や、子どもたちが地域の中で見守られて育つ環境を充実させましょう。



むろまち交流広場

明倫学区の地区計画

※この明倫元学区地区地区計画の「区域の整備・開発及び保全の方針」は、明倫学区の皆さんが話し合って作成されたものを、京都市都市計画審議会で審議のうえ、京都市の都市計画として決定・告示したものです。

●区域の整備・開発及び保全の方針

平成 18 年 7 月 24 日 京都市告示第 137 号

地区計画の目標	当地区は、京都の都心部に位置する商業・業務の中心地であるとともに、わが国三大祭のひとつである祇園祭を伝える地域である。また、室町時代以来の町衆によって形成された自治の気風や文化・芸術に親しむ心が今に伝わり、商いと共存しながら多くの人々が住まう地域である。 当地区においては「祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち、商いと暮らしが響き合うまち 明倫」の実現を目指したまちづくりを進めており、今後ともこのまちづくりの進展を図るため、地区計画の目標を以下のように定める。 1 地域に愛着と誇りを持ち、文化が薫るまちの個性と魅力を高める 2 商いと住まいの共存を図り、風格のある美しいまちなみをつくる 3 だれもが安全・安心に暮らせ、交流豊かなコミュニティをつくる
土地利用の方針	都心部に位置する商業・業務地として、また、歴史と伝統文化が息づくまちとして、明倫にふさわしい商いの継承・発展を図り、美しく魅力的な市街地をつくる。 また、風俗産業などの明倫にふさわしくない業種の進出や環境の悪化を防ぐ。 さらに、当地区を細区分して、それぞれ次の方針により地区の特性に配慮した土地利用を誘導する。 1 職住共存地区（烏丸通沿道地区及び四条室町地区以外の区域） 商いの継承・発展とともに、交流豊かなコミュニティの形成、住環境の向上を併せて実現させるため、地域社会と調和する業種の進出を促し、伝統的なまちなみと調和した市街地の形成を図る。 また、三条通などに多様な交流空間を形成するため、店舗などの導入を促進する。 2 烏丸通沿道地区及び四条室町地区 京都の中心的な商業・業務地として、商業施設の他にも、集客施設や情報産業の立地が進んでいる地区である。 事業者もコミュニティの一員であることを自覚し、地域の住環境及び業務環境の維持に配慮しながら、当地区にふさわしい良質な商業・業務機能の集積を図る。
地区施設の整備方針	良好な市街地環境を形成し、交流豊かなコミュニティづくりを進めるため、緑地・広場等の創出を促進するとともに、歩行者の安全性と快適性を確保し、町並み景観と調和した道づくりを進める。
建築物等の整備方針	風格のある美しいまちなみの形成を図るため、建築物・工作物については、周辺の町並み景観と調和する質の高い形態・意匠とするとともに、地域の特性に調和した色彩・材質とする。 また、広告物、駐車場及びその他屋外設置物については、周辺の建築物・工作物と調和した、統一感のある形態・意匠・色彩とする。 さらに、当地区を細区分して、それぞれ次の方針により、地区の特性に配慮した建築物等の整備を図る。 1 職住共存地区（烏丸通沿道地区及び四条室町地区以外の区域） 地域の歴史・文化を受け継ぎ、住み続けられる、落ち着いた居住環境を保全するため、町家や歴史的・文化的な建築物と調和のとれた用途、形態、意匠を備えた建築物の立地を促進する。 共同住宅については、居住者のコミュニティへの参加を促進する交流空間の確保に努めるとともに、共同住宅の良好な管理に配慮した配置計画とする。 店舗・事務所等については、駐輪場を適正に確保し、配置するとともに、低層階を通りの特性に配慮した計画にする。 2 烏丸通沿道地区及び四条室町地区 京都を代表する業務・商業地にふさわしい用途の建築物を誘導し、烏丸通に面する共同住宅の建築を抑制する。 また、歴史ある洋風建築物と高層建築物との調和に配慮するとともに、統一感のある質の高い美しいまちなみの形成を図る。 業務ビル等については、駐輪場を適正に確保し、配置するとともに、低層階を通りの特性に配慮した計画にする。
その他当該地区の整備・開発及び保全に関する方針	地区に残存する樹木・緑地等については、地区の自然環境の維持に果たす役割に配慮し、その機能の維持を図る。

明倫学区からのお願い

● 建築等の計画や工事をされるとき

- まず、「まちづくり委員会」へご相談いただき、この冊子の趣旨や地区計画の内容をよくご理解の上、つぎのような点に配慮した計画とするようお願いします。
 - ・ 周辺の建物やまちなみと調和した、質が高く統一感のある形態、デザイン、色彩、材質とする。
 - ・ 低層階には、地域との交流空間や店舗など、通りや周辺の特徴に配慮した施設を配置する。
 - ・ 適正な規模の駐輪場を設置する。
- 規模が大きい建物については、町内会など近隣の皆さまや自治連合会と、工事中及び建物完成後の管理に関する協定の締結をお願いします。
- 特に防災・安全面で、地域の安全なまちづくりに配慮した設備（防災器具庫、非常口など）の設置をお願いします。
- 地域の一員としての自覚と誇りをもち、近隣の皆さまに十分配慮して下さい。

● 共同住宅の運営・管理について

- 入居者の皆さまには、地域の一員として、町内会への参加と町会費の負担をお願いします。
- 共同住宅の販売や管理を行う方は、あらかじめ管理規約に上記のことを記載し、そのことを入居予定者に十分説明し理解してもらって下さい。
- 入居者同士で連絡網（隣組）をつくるなど、共同住宅内でのコミュニティ形成を進めて下さい。
- 共同住宅と地域との良好な関係を築くため、集会施設などを設置することや、施設の周辺住民への開放などをお願いします。
- 管理組合や管理会社の方は、入居者の現状などをよく把握し、お知らせの配布や町内会、自治連合会の運営にご協力下さい。

● 店舗・事務所など事業者の方へ

- 地域にお住まいでない事業者の方も、地域の一員としての自覚と誇りを持ち、決められたルールを守り、周辺の環境を維持するためにご協力下さい。
- 風俗営業、カラオケBOXなど、地域の環境に悪い影響を与える施設はお断りします。

地区計画に関するご相談・お問い合わせ先

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
京都市都市計画局 都市企画部 都市づくり推進課
TEL (075) 222-3503 FAX (075) 222-3472
ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/tokei/todu/index.htm>
メールアドレス todu@city.kyoto.jp

明倫自治連合会の組織と活動



● 連合会の組織

明倫自治連合会には、現在21の団体があり、それぞれの目的に従って活動しています。本部はそれらの団体を統括、連合会全体の運営を行っています。

● 各団体の運営

各団体は、1名～数名の役員を中心に運営され、他の学区とも連携しながら、活動を進めています。

● 理事会

協議機関として、各団体長と本部役員からなる理事会があり、適宜会合を開き、各団体間の連絡・調整や連合会の懸案事項の検討などを行っています。

● 総会

総会は少なくとも毎年1回以上開かれ、各町内の市政協力委員(町会長)の出席のもとに、決算及び予算などの重要事項について審議や議決を行っています。

明倫自治会館(元明倫幼稚園)

室町通蛸薬師下る山伏山町 553 番地

自治連合会の活動拠点は、元明倫幼稚園である明倫自治会館で、主な団体の責任者で運営委員会を作っています。

自治会館には、会議室、老人クラブ室、炊事室、遊戯室(多目的スペース)などがあり、地域活動が目的であれば、運営委員に届けたうえで使用が可能です。

写真：明倫自治会館(元明倫幼稚園)

※各団体の活動は、次の明倫ニュース・ホームページをご覧ください。お問合せはメールで。連絡先は各町の市政協力委員にお尋ね下さい。

◆ホームページ
<http://www.meirin-news.com>

◆メールアドレス
info@meirin-news.com

祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち、商いと暮らしが響きあうまち 明倫
— まちづくりの目標と方針 —

● 作成・編集 京都市、明倫自治連合会・明倫まちづくり委員会

● 発行 京都市都市計画局 都市企画部 都市づくり推進課